

主婦たちのIT会社起業

2001年、子育て中の女性たちでウエブ制作会社を起業した。インターネットが世に普及し始めた頃で、ウエブの世界なら「時間と場所に縛られない働き方」を実現できるのではないか。周りに実例がない中、私たちの挑戦が始まった。

専業主婦からの起業ということでも甘く見られないか、在宅ワークはいいかげんな仕事だと思われないか、常に細心の注意を払った。家庭や育児との両立では長時間働くことは難しい。2人で1人分の仕事ができる事を目標

凛としていきる

理系女性の挑戦

「補いながら働く」大切に

とした。短時間労働でも在宅ワークでも「同一労働・同一賃金」であること。これが私たちの働き方の原型だ。現在、神奈川県、愛知、兵庫、福岡に住む女性5人体制でシステム開発を行っている。離れたお客さまとリモート開発環境を構築、

人手の足りない案件にも参加するなど、開発チームの一員のような働き方を長く依頼頂いている。女性の粘り強さはプログラミングには欠かせない要素だ。多様な働き方の実現には課題も多い。離れて仕事をするということは社員を信頼しなければ成り立たない。不真面目ということ

社員全員が顔を合わせる年に1度の社員旅行。今年は5月に沖縄へ



ではなく、仕事をし過ぎてしまうことも問題となる。無理を続ける、結局どこかにしわ寄せが発生するからだ。

そこで1年の始めに「今年の働き方」と題し、自分の労働時間や収入を自分で決める、という取り組みを始めた。仕事時間はフルタイムではなく、7割程度を推奨している。1人の社員に仕事が集中すると相当の負担がかかるが、繁忙期に社員全員が少しずつ余力を使うことで会社全体のパフォーマンスも上げ

る仕組みだ。私自身、起業後に次女の出生、夫の転勤で2回の引越越しを経験したが、仕事を継続できたのは「補いながら働く」ことを社員たちが大切にしてきたおかげだと感謝している。

転職が多いIT業界で、長く働き続ける社員がいることは強みである。一度離れたお客さまから「安定して依頼できる主婦集団として再認識した」とわざわざ来社して再契約のご依頼を頂いたことがある。私たちの目指した働き方が認められたという実感が沸き、大変うれしかった。信念を持ち、じつ

り取り組むことで働き方は変えられる。これからもチャレンジを続けていきたい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWF)

(火曜日に掲載)

デジタルムーン
取締役
橋本 晴子



△プロフィール▽
89年 甲南大理学部卒、同年丸紅情報システムズ入社。96年出産を機に退社。01年デジタルムーンを起業。